

学会印象記

第 29 回日本サイコオンコロジー学会総会
北海道 2016 学会印象記富山赤十字病院 呼吸器外科・緩和ケアチーム
小林 孝一郎

9月23・24日札幌市において、「北の大地からPeace of Mind 切れ目ない、がんに伴う心のケア。つながる、ひろがる、サイコオンコロジー。」を大会テーマに第29回日本サイコオンコロジー学会総会が開催されました。若き上村恵一大会長はアイディアマンで、自身の等身大パネルによる関連学会での広報や市電貸切ウェルカムパーティなどを行って大会気運を盛り上げました。そしてなんと札幌市長や教授、病院長などを招いてテープカットを行うという、学術大会では見たことがない驚愕のオープニングセレモニーを挙行し、華々しく盛大に開会したのでした。最初の大会長企画は、初めてのサイコオンコロジー-札幌大会の歩き方-でした。とてもわかりやすく好評でしたが、すでに他の会場も始まっていたことから、あらかじめホームページで公開してくれたら良かったのという声も聞かれました。「今こそ、メンタルヘルスの礎を。」をプログラムテーマに掲げ、オピオイドケミカルコーピング「その使い方、大丈夫？」～サイコオンコロジーがすべきこと～、命を看取る現場での心のケアとは～救命センター、緩和ケア病棟、在宅～を、大会長企画として盛り込みました。さらに私が座長を務めた大会長企画「やめる」という判断 心ケアの必要性～化学療法、透析、延命～では、JPOSとしてはじめてという治療中止の意思決定支援を取り上げました。様々な治療の中止は、それぞれに難しい問題を抱えていますが、行動経済学を学ぶことで理解しやすくなりました。そもそも意思決定には損失回避性のようなバイアスがあるため真の自律は難しく、自律尊重原則だけでは患者の希望が利益につながらないことは数多く経験します。適切な選択を促し、危険を回避させる「ヒジで軽く相手をつつくような」NUDGE(ナッジ)を効かせた説明が、患者に真の利益をもたらす可能性があることを学びました。患者の選択の自由を狭めることなく(リバタリアン)、有益な行動を促すあるいは有害な行動を控えさせることで患者の利益となるよう働きかけるパターンリズムを融合したりバタリアン・パターンリズムが新たなスタイルです。リバタリアン・パターンリズムを活用した

インフォームドコンセントこそが、患者の真の利益につながり、心理的サポートにもつながる意思決定支援であると得心しました。その他、貴重な講演や意欲的なシンポジウムも数多くあり、がん対策基本法改正、がん対策加速化元年を迎え、次の10年に向けてサイコオンコロジーが加速する素晴らしい大会となりました。